

「好き」を大切に

町内在住の書家・久保奈月さん。月形に移住し、アーティストとして活動する久保さんから、好きさを伺いました。



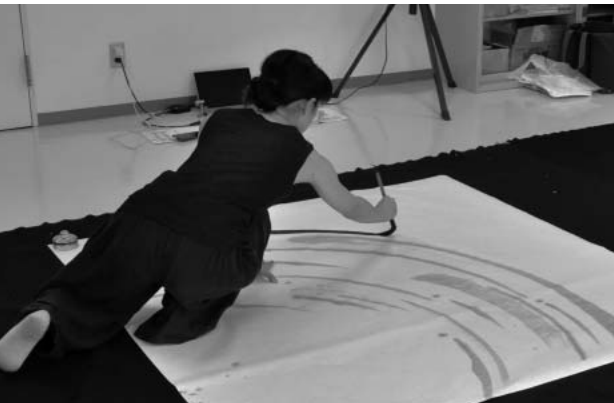
書家 ^{なつき}
久保 奈月さん (赤川3)

○プロフィール

共和町生まれ。佐藤瑞鳳氏に師事。道内を中心にアメリカシカゴなど国内外で活動。書と絵画を融合させた現代アート作品を製作。2018年11月、結婚を機に月形町に移住。

○ホームページ

<http://72mode.com>



書の楽しさに 気づくまで

私が、書道を始めたのは7歳、高校卒業まで地元の書道教室に通っていました。しかし、学年が上がるたびに辞めたい気持ちが強くなり、一度「辞めたい」と先生に伝えたことがありましたが、「続きなさい」と一言。そのまま続けていくうちに、書道の段が上がったり、コンクールで入賞できるようになりました。

書の楽しさに気づいたのは、高校の書道の時間でした。文字で遊ぶ、自由に書くという表現方法を教わったときに、書に対する固定概念が覆され、今までもやもやしていたものが晴れた感覚で、高校を卒業する頃には、書が好きになっていました。

転機〜勇気ある一歩

高校卒業後、地元の介護施設の職員として働く傍ら、書道が続けていましたが、徐々に「書を仕事にしていきたい」と考えるようになりました。

家族や職場の上司からは、「生活が大変だぞ」など愛のある反対意見もありました

現在に至るまで

が、「今の自分を変える」「目標のために」と札幌へ行くことを決意しました。

活動当初は、紙や墨などの材料を調達するため、お金を稼がなければならず、アルバイトをしながら活動を始めました。その分、作品制作の時間が減るというジレンマに苦勞しました。

その後、知り合った仲間と共にアメリカのシカゴで1カ月滞在しながら活動する機会がありました。これを機に展示会をはじめ、現地の音楽家とのパフォーマンスなど計5回渡米し活動することができました。現在は、和楽器など異ジャンルとのコラボレーションにより、書にさらなる彩いろどりを与え、新たな挑戦となっています。

新しいことを生み出すことは、確立までに大きな壁がありますが、そんな時に、書の基礎や、「書は心なり」の教えがあったからこそ、今に繋がっていると実感します。

まだまだ活動の途中ですが、かつて言われた「書が続けなさい」の一言は、継続は力なり。のことだと思えます

「好き」に 挑戦する人へ

年齢に関係なく、何かをやりたい方は沢山いると思うけれど、現実的に厳しい場合がほとんどだと思います。ただ、やりたい事が本気ならば、遅かれ早かれ必ず自分に合うやり方があると思います。

人生一度きり。後悔先に立たずです。勇気↓実績↓信頼の順番で自分を信じ、また、信念を持って、感謝の気持ちを忘れずに続けることが大切だと思っています。

●今後の活動について

久保さんの作品が、札幌市などで開催される展覧会で出展されます。詳しくは、次のURLまたはQRコードからご覧ください。

ホームページ <http://dogi-n-bunkazaidan.org/newsdetail.php?id=129>

